

題材【CASE 2…音楽室の怪談】

その学校の音楽室には、恐ろしい噂があった。誰もいないはずの真夜中に、ピアノを弾く音と、大勢の笑い声が聞こえるというのだ。

「なんでも、ピアノリストを目指していた女子が事故で亡くなって、その霊が弾いてるって噂だぜ」生徒の1人が友人に言った。

「それ、俺も聞いたことがある。

でも、怖いのは、それだけじゃないらしいぜ。

最初は、静かに弾いているのに、

だんだんと鍵盤を叩くような、

鬼気迫る演奏になるらしんだよ」

「よっぽど強い恨みか想いを抱いてたのかな」

不気味な笑い声と鬼気迫る演奏を想像し、

話をしてきた生徒たちは、小さく震えた。

【応募作品】

友人の提案により、僕たちはその怪談の真相を確かめに行くことにした。

深夜0時、おびえながら夜の学校に忍び込む。

警備員と目が合ったような気がしたが、注意されることなく侵入は成功した。

音楽室へ着くと、噂通り部屋からは

ピアノの音と笑い声が聞こえた。

しかし、その音色は、「強い恨み」を持つようなものではなかった。

僕たちは、勇気を振り絞り、部屋のドアを開けた。

そこには、女の子の霊がピアノを弾き、

そのまわりを観客の霊たちが取り囲んでいる。

鬼気迫る様子はなく、霊たちは皆、優しい笑顔をしている。

「どうして？ 噂とは全然違う……」

女の子の霊が立ち上がって言った。

「面白がって肝試しにくる人間には、驚かせるような演奏をしているのよ。

でも、仲間には、そんなことはしないわ」

その時初めて、僕たちは、

自分たちが、すでに死んで霊になっていることに気がついた。